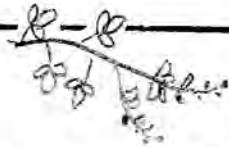




奈良・人と自然の会



＜わたしたちは大和の自然を愛します＞

二上山の鎮魂歌

岩田 利秋

二上山は約 1500 万年前には火山であって、二上層群の地質を形成し、石器時代にはサヌカイト石を産出し日常生活の器具に供してきた。二上山は、雄岳（515m）と雌岳（474m）があつて「ふたかみやま」と呼ばれ、神霊の宿る霊峰と仰がれてきた。大和の国の人々は夕日が沈むこの山に暮れゆく日を惜しみ、河内の国の人々は太陽の昇るこの山を希望をもって仰いできたことでしょう。

春は新緑で盛り上がるように「山嗤い」、秋は紅葉して「山装おう」素晴らしい山です。二上山を巡る歴史のメモを記しておきます。

天智天皇（38代）の崩後、その皇子大友皇子^{おおとものみこ}が即位（弘文天皇・39代）したことで、大海人皇子^{おおあまのみこ}は吉野を脱出して東国に逃れて挙兵した。これが古代最大の内乱といわれている壬申の乱（672年）である。これに勝利して天武天皇（40代）となった。古代の王権は数多くの政争の犠牲のうゑに成り立っている。大津皇子^{おおつのみこ}の悲劇的な死も、そうした犠牲の一つである。天武天皇の後継者は、早い段階から鸕野皇后^{うの}（のちの持統天皇・41代）所生の草壁皇子^{くさかべのみこ}に定められていたが、一方で大田皇女^{おおたのひめみこ}（鸕野皇后の姉）所生の大津皇子^{おおつのみこ}に期待を寄せる声も高く、この対立が大津を死へ導くことになった。天武天皇が崩じた直後（686年）大津皇子は謀反の疑いをかけられ磐余^{いわれ}の池の堤で縊^{くび}り殺された。時に 24 歳。

大津の遺骸は仮埋葬されたのち、改めて二上山^{ふたかみやま}に葬られたらしい。

その時、悲しみを唄った同母姉大伯皇女^{おおくのひめみこ}の歌がある。

「うつそみの 人にある吾や 明日よりは 二上山^{ふたかみやま}を弟^{いそ}と吾^あが見む」（巻 2・165）

意訳（この世の人である私・・・。明日からはもはや、二上山を弟と思つて眺めるほかなくなつてしまった）

「磯の上に 生ふる馬酔木^{あしび}を 手折らめど 見すべき君^あが在りと言わなくに」（巻 2・166）

意訳（岩のほとりに生えている馬酔木の花の美しさに、つい知らず手を出して折ろうとしたけれども、とたんに気づいた。見せて、よろこばせてやりたいと思つた弟が、もうこの世にいないことを・・・）大津皇子が二上山に移送されたのは、山々の馬酔木が可憐な白い花を一杯に咲かせる春の時季。この二首は大津皇子^{おおつのみこ}の霊に働きかける鎮魂の歌である。

大津皇子の墓は、二上山の雄岳の山頂近くに、大和に背を向けるように建っている。また、山麓の山口神社の朱の鳥居は雄岳の方角に向いているともいわれている。なお、付言すれば大伯皇女^{おおくのひめみこ}がその後どの様に生きたのか不明であるが「続日本紀」によれば「大伯内親王薨。天武天皇之皇女也」の記事があり享年 41 歳。大津皇子の死から 15 年生きたことになる。

それにしても、明日香宮から二上山の雄岳を弟と仰ぎ見た大伯皇女^{おおくのひめみこ}の雄大な発想に敬服しロマンを感じるではありませんか。

（「万葉集ハンドブック」他参照）



思いでの記

序にかえて

顧問 川井 秀夫

今年5月。7年間の会長職を辞し、顧問として会の成り行きを見守って参りたいと思っております。今後とも、よろしくお願い申し上げます。

自然と環境問題に関心を抱いて13年。色々な場で切磋琢磨して来ましたが、新しい世界に驚きと感動を経験し、晩年の充実した日々に大きな影響を与えて呉れました。

よく、自然の中で‘何が一番好きですか、と問われます。私は即座に‘人間です、と答えます。‘嫌いなものは、‘人間です、と。この矛盾、この落差は何んでしょうか。

環境問題を仲間と論じていますと、必ず悪者に人間が登場してきます。地球環境問題からゴミ問題、最近では食の問題まで、知恵ある人間の業でしょうか。

一方自然に相對していると、物言わぬ万物の中で誰かが代弁して、色々な形で心象風景を教えて呉れます。言語能力のある素晴らしい人間の存在を実感する事がしばしばです。そんな経験から生まれた、私の偏見でしょうか。

当会は01'年9月。発起人会の準備期間を経て産声を上げました。谷口 暁氏(現 奈良NPOネットワーク代表)坂口 正彦氏(現 ならなき会員)らが中心となり、副会長に有本 倍美氏(現 監査役)、会報編集に甲斐野幸一氏(現 会員・奈良 巨樹の会 幹事)会計に平木 充子氏(現 非会員)の体制で、手探りのなか船出した事が昨日の様に蘇ります。

会員も30名前後だったでしょうか。奈良公園で最初の研修会を開き、飛火野「雪消の沢」近くの野原で立ち上げの氣勢を、高々と諸手を挙げた事が印象に残ります。

80才近いご老体が杖をついて参加(お名前は失念しましたが)され、肩を叩かれ激励を受けた時は、やって良かったとしみじみ思ったものでした。

時は流れ、人も流れます。七年間を回想しますと、色々な曲折があり苦労話もありますが、ここでは本会の屋台をしっかりと支えて頂いた方々、活動行事で印象に残った方々の人間群像を、私の視点でご紹介したいと思います。失礼な点があればご容赦下さい。

次号では当会の人気シリーズとなった県下『東海自然歩道』ウォーキング紀行から6回シリーズでご紹介致します。

船頭の漕ぎだす先や翁草 秀夫



8月18日（月）晴 講座生の実習受入れ準備

今月からシニア自然大学の実習生を受入れるので、スタッフが準備をする。実習場所の山林の地図作り、調査区割りの設定、D地区山地の観察路の確認など。

観察路点検の際、ホソアシナガバチの巣に踏込み一人が被害を受ける。幸いご本人は経験豊富だったので、応急処置をして直ちに帰宅、事後の適切な対応により事なきを得た。野外活動にはつきもののトラブルとは言うものの、救急体制を再点検したことでした。

（救急医と契約し、電話番号をベースキャンプに表示しました） 解散 3時

8月23日（土）雨天のため、講座生受入れ中止

8月30日（土）子供向けイベント「ならやま 森を知る、遊ぶ、遊ぶ」雨天中止
参加予定40名（申込みは60人）の人気イベントなのに残念！

8月31日（日）晴 参加者18名 ゴミ回収・分別、A山林整備、夏草刈り、ナス施肥

今回から、新たに2名（吉瀬さん、塩本さん）が加入されました。大いに歓迎します。

朝一番、全員で放棄ゴミの回収を実施、今回はならやま大通りまで範囲を広げる。このクリーンアップ作戦は地元住民から高い評価をいただいているが、一方でゴミを置いていく不届き者もある。しかし、ならやま周辺のクリーン度が確実に向上しているのは事実。

A地区、景観上竹藪の整備と並行して、山裾一帯の笹刈を実施した。

解散 2時30分

9月11日（木）晴 参加者27名 A地区竹間伐と草刈り、花壇手入れ、倉庫移転

A地区の山地の景観整備の一環で、隣接の畑跡の荒れ地を整備して、「菜の花プロジェクト」の用地に仕上げる。本日草刈り完了、次週以降、耕起と畝作りをおこない、27日の種まきに向けて、急ピッチで準備する計画です。皆様のご協力をお願いします。

畑作業では、ニンニクの植付け、分葱の植付け、ナスの手入れと盛り沢山のメニューをスムーズにこなす。花壇は百日草、花ナス、ジンジャー、コスモスの手入れ。

景観に配慮して、収納庫2基を木立の奥に移設完了。これでベースキャンプ広場がすっきり片付いてさらに利用しやすくなりました。

3時 解散

9月13日（土）会員芋掘り大会 参加者50名（内 家族・子供24人）

心配された雨が奇跡的に上がり、総勢50人の会員と家族が芋掘りを楽しみました。通常より1ヶ月早く植えつけておいた「ナルトキントキ」は上々の出来栄。銘々で手製の竹スコップを使って、家族共同作業の芋掘りに子供たちは興奮気味。昼食後はならやまの生き物観察、焼き芋など秋の一日を存分に楽しんでいました。

2時解散

****ならやまプロジェクト当番制が発足**

火曜日、金曜日の9時～11時の間、2名の当番が現地に居ることになりました。仕事は、施設類の点検、フィールドの見回り、畑の手入れ等です。定例日以外にならやまで活動したい方は、この日に来ていただければOKです。とりあえず9月～12月とします。

****ナスクラブ特報！**

夏の盛りの間のメンバーの水遣りの努力に応じて、秋茄子が色艶もみずみずしく生り始めました。しばらくは秋茄子の味を堪能できることでしょう。クラブメンバーの皆様ご期待下さい。

（古川 祐司 記）

ならやま里山林自然観察レポート

9月11日(木)

ヌスビトハギ、アレチヌスビトハギ、ミズヒキ(赤、白)キンミズヒキ、ヨウシュヤマゴボウ、イヌタデ、タカサブロウ、ツルボ、ノアズキ(ヒメクズ)、キツネノマゴ、ゲンノショウコ、ニラ、ヤブガラシ、クズ、カナムグラ、カラスウリ、スズメウリ等秋の野の花が賑やかに咲いています。やつとフジバカマが咲き出しました。

(林 令子)



社会貢献事業参加報告

黒髪山自然塾参加報告

小嶺敏勝

8月24日(日)夜来からの雨は朝まで降り続き、心配したが予報が晴れとの事で開催された。

1年生から6年生迄の62名の子供達が参加した。

午前中はタケ切り体験、その竹で流しそうめん用のカップを切り昼弁当の後、流しそうめんを楽しんでいた。

我々、人と自然の会のスタッフ9名は午后を担当した。

流しそうめんで使用したカップをヤスリを使い面取りと、タケ取手を付けると、立派なジョッキーの出来上がり、1、2年生は側面に思い思いの絵を描いて、ご機嫌、その後全員がタケの水鉄砲作りして、夢中で楽しんでいた。

取手付けは只のボンドで付けるのではなく穴開け後、タケヒゴを入れての作業で難しいのでスタッフの皆さんも多数の子供達への指導大変だったと思います。

今回、初めて工作にスタッフとして参加され、強く興味を持たれた方も多く、心強いかぎりです。

参加スタッフ

阿部、古川祐、林、板橋、水本、竹本、森、寺田孝、小嶺

奈良県環境フェア報告

小嶺 敏勝

本年は、再びJR大和高田駅前の広域地場産業会館で9月20日(土)開催された。

環境について関心が強く成っている為か、参加者が年々増加している様だ。

我々はタケ切り体験、タケコップその他のタケ工作を提供し参加した。子供達はタケ切りが初めてで、切り終えた後の誇らしげな顔が印象的であった。自分で切ったタケを花挿し、コップ、鉛筆立て等に、ヤスリ、絵付けできれいに仕上げて喜んで持ち帰った。

毎年、奈良・人と自然の会が何を作らせてくれるか楽しみに来ているとの、リピーターのご婦人が何人もおられた。子供達は常に5、6人行列ができスタッフは大忙しで対応、途中、COOPで出展の豊島副会長も応援に駆け付けてくれた。

今回も企画好評で会のPRもできたと思います。参加スタッフ：岩田、竹本、小嶺

追憶とならやま里山林

木村慎司郎

見上げると、梢の向こうに秋の青空が広がる。子供の頃、学校から帰ると大抵よじ登っていた家の傍の富有柿の樹。柿をもぎ取ると枝に跨って、味わう前におもむろに周りを見下ろしたものだ。あの景色の中に、人の姿は見えていたのだろうか。人の声は聞こえていたのだろうか……。初夏には、ハグロトンボが翅を休めていた水辺。数少なくなったヘイケボタルは、今でもはかなげな軌跡を、暗闇の中に描いているだろうか……。



田舎の牧歌的な情景が、心ならずも薄れてゆく時、寧楽の地にその面影を見出した。チョウトンボこそ初対面だが、ギンヤンマ、シオカラトンボ等、馴染みの生態系を保つ「ならやま里山林」。自然への感動を共有できる人との、触れ合いの中で醸し出される和みと、静謐。「森の生活」にもなぞらえながら、ここでの活動は、私の自然回帰本能をくすぐるものがある。

今は手を入れることが少なくなった、郷里の田畑や取り巻く環境。やむなく遠ざかったそれらへの思いを込めながら、私はこのフィールドに溶け込み行動出来るであろう。これは同時に「楽しみ」の再発見でもある。

それにしても、少年の頃見たあの晩秋の空の色は、何時も澄んで只青かった。だが今では、本当は、計り知れない自然の、悲しいほどの深みをたたえていたのだ、と思うようになっていく。

改心の記

佐々木 達裕

物心ついてより、自然への関心は薄く、人文的な遊びばかりにうつつを抜かして過ごしてきた我が半生を振り返っては、もっと山川藪沢に遊び、草木虫魚を友として余暇を過ごすべきではなかったかと、遅きに失した反省を繰り返している。

さりながら、やっと人生の晩期に至った今日、さまざまな人たちと出会い、新しい仲間ができ、自然と親しむ機会も増え、今が我人生の黄金期であるとさえ思うようになりつつある。

サークルの集まりやハイキングに参加するたび、春の雨、夏の日差し、秋の風、冬の木立等々、今まで何の感懐もなく見過ごしてきた季節々々の風物ひとつひとつが砂地に水を撒くが如く心にしみこんでいく。

これからは、自然に対して敬虔に接し、この恵まれた地球という環境に感謝しながら、日月星辰を楽しむ日々を送っていきたい、と改心真っ最中である。

3月の例会 早春の山の辺の道を歩こう の案内を見てどうしても参加させて頂きたくなりシニア自然大学を修了前に厚かましくも寄せて頂きました。黒塚古墳から眺めた三山、鶯鶯の越冬池となっていると言う御陵のお濠、雲雀が揚がっていた畑の中の神 籬遺跡、日本最古の道で聞いた初音、などなど期待に違わない素敵な早春の旅を満喫させて頂きました。その上に山の辺の道を歩く時は100円玉と大きな袋を持参することも先輩から教わりました。無人売店での野菜の買い物の楽しかった事も忘れられません。

5月の歓迎会では野趣豊かな筍の丸焼きや野草の天ぷらなど心の籠った数々を御馳走になりまして感激しました。何時かは私も少しはお手伝い出来るようにしたいと思っています。

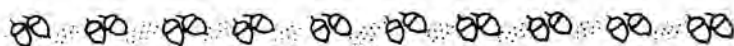
9月の彼岸花の仏隆寺と伊勢街道の旅籠巡りもとても参加させて頂きたいのですが、今は少し無理なので断念します。来年6月頃よりまたお世話になりますが宜しくお願いいたします。

自然俳句欄

なら山の霖雨恨めし草の花 秀 夫

雨の記事を書いたせいか、晩夏の長雨が多かった。

当会の催事も再々の休止に遇い、里山の七草も恨めしげに濡れそぼる。



緩やかに過ぎ行く季節の戸惑い

谷川萬太郎

時は緩やかに揺れ流されていつのまにか昨日の出来事さえも今は遠い昔に変わってしまうのだろうか

寄せては返す白波を懐かしむように幾度となく思い出を重ねた折り鶴のような追憶の日々

そっと忍び寄る柔らかな初秋の訪れに耳を敏てれば鮮しぐれが雨上がりの小さな青い空に消えていた

そうだ黒紋付の燕たちも巣立ちして季節の向うの南の国へと旅立った後姿が陽炎のように甦る

行き場のない暑い夏の抜け殻がさ迷いながらゆっくりと季節に別れを惜しむ童の背中を駆け抜ける

気がつけば誰かが吹かしたタバコの煙の輪のように人と自然の笑い声が未来に向って流れて行く

今日もまた里山の奥深く埋もれる自然の豊かさに育まれ緑の木立や土の匂いが喜びに溢れる

背筋を伸ばして秋を楽しむピンクや黄色の斑模様のコスモスにトンボや蜂たちも艶やかに華やいで

人と自然が織りなす思い出はまるで閉じては開く蒔絵のようにどこまでも美しくどきどきさせるのだ



ハイタカ

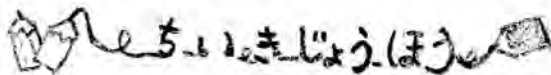
小田 久美子

7月菊川さんからハイタカ目撃の情報を頂きました。森林性の強いこのタカはこの近辺では冬鳥としてしかあまり記録がありませんが、菊川さんは昔から鳥も良く観察されているようですので、尊大な申しようですがポイント眼力は確かだと拝察致しました。奈良支部冬の探鳥会では時折会えますが、平地での夏期はかなり前の記録だけの鳥のようですので、是非確認したいと菊川さんにご足労頂いて何回か出かけてみました。



(私ごとですが6月始めのアクシデントで、上を見上げる作業はとてもキツかったのですが、この時期を逃してはとの思いの方が強かったのでもちよと頑張りました)観察の後半には何度かオオタカの親子を目撃しました。エサをやり取りしている所を見ましたが、くだんの鳥はこれより小さかったとのこと。果たしてこのとても小さいエリア内で二種類のタカが共存出来るのでしょうか?それともハイタカの繁殖の方が早くて先に巣立ったのでしょうか?疑問と共に興味津々、期待は自ずからつづります。皆さんも「なら山」に来られた時には時々手を休めて空を見上げて下さい。概ね♂はハト大、♀の方がそれより大きく体重は倍ほどの鳥です。

「ハイタカ」は元来♀にあてた名で、体色の異なる♂は「コノリ(兄鶴)」と呼んで種類が違う鳥だと思われていたようです。



★【斑鳩】9月11・13日旅鳥のエゾビタキがいました。

(勝田)

★8月22日榎原の畑にコジュケイが親子で食事に来て、それをねらってイタチまで小屋に寝泊りして…親はイタチに気づいて、子供に「隠れて 隠れて」とでもいう風に「ゼゴゼゴ」と鳴いて…次の日畑に行ったら足元から親が飛び立って残された子が我慢できず「グイグイ」と鳴くと親がおそろおそろ戻ってきました。

・キジの子はなんて鳴くと思いますか?「ヒヨヒヨ」と鳴くんですよ。御所の畑で「ヒヨヒヨ」という鳴き声が聞こえるので何の声かと思って近づくとパタパタッと三羽の子キジが飛び出てこっちがびっくり!

・庭のヤマモモが枯れかかっていました。よく見たらミノムシの大集団でした。直径が20cm高さ4mのヤマモモの葉を全部食べ尽くしてくれました。このミノムシは何にでもくっつくんです。毎日何度もミノムシを捕り、大げさではなく何千匹とったかな。もう十日以上も毎日捕り続けています。今まだいるんです!(齋藤)

お知らせ

会員名簿配布中止します。

8月号でご案内しました「会員名簿」の配布は、様々な(個人情報の拡散防止…)問題があり、「配布しない」とことと結論しました。会員名簿の閲覧など必要な方は、幹事に、個別に、ご相談くださるようお願いいたします。

(会長 阿部和生)



原則 前日の午後7時前のNHK天気予報で降水確率(午前)60%以上の場合は中止

『ならやま里山林プロジェクト10月の予定』

このプロジェクトは三井物産環境基金の助成を受けています

- 場所 奈良市奈良坂町・佐紀町の県有林(JR平城山駅下車徒歩10分)
—「ならやま会館」前の道路(ならやま大通り)の南側に広がる林地—
- 日時 10月9日(木) 一般活動・芋掘り(第2回)
10月25日(土) 佐保台小学校元気クラブ 芋掘り大会 午後一般活動
10月26日(日) くろかみやま自然塾 芋掘り大会 午後一般活動
10月31日(金) 予備日
いずれも 9時集合 3時終了の予定
(当面の間、火、金 9時~11時 ならやま当番2名が現場に駐在します)
- 集合 現地ベースキャンプ地
- 交通 ①近鉄奈良駅 バス13乗場8:23発 高の原行
②近鉄高の原駅 バス1番乗場8:30発 JR奈良行
①、②とも佐保台西口、または平城大橋下車 徒歩約7分
- 携行品 弁当、飲み物、軍手 (作業用具は現地に用意しています)
- 活動内容
・里山林整備、環境整備、植生調査、放置田跡の笹刈、花木植栽等の景観形成
畑作業は、除草、秋冬野菜植付け、有機栽培のための堆肥作り
- 景観クリエイター募集
里山にふさわしい景観を作りたいと思っています。花、樹木の植栽に関心のあるボランティアを募集します。また、花壇・山野草類の育成についてアイデアや苗をご提供下さい。また果樹の苗なども寄贈いただければ幸いです。
- (申込み・問合せ先: 古川 小嶺)

【奈良忍辱山森林整備作業】

- 場所: 奈良市忍辱町 国有林 駐車場より徒歩10分東海自然歩道沿いの二次林。
- 集合場所: 国道369号線一忍辱山町自治会共有地(池のそば) 駐車場
(奈良交通バス停 忍辱山円成寺口下車 少し戻る南川側)
- 日時: 10月22日(水) 15日より変更しています、気を付けてください。
11月13日[木] 予備日 11月26日(水)
- 【集合時間10:15より、終了予定Pm3:00ころ】
- 交通: 奈良交通バス 近鉄奈良駅前バス乗り場④番 9:40 柳生・月ヶ瀬温泉行き
(10月ダイヤ改正があるかもしれません)
- (持ち物) 作業のできる服装、昼食、飲み物、手袋、 用具は、準備していますが、
お手持ちのものあれば持参ください。ご参加お待ちしております!!
- (連絡先) 弓場厚次 明石嘉一郎 板橋宏昌

作業報告

9月17日(水) 秋の森林作業シーズンの到来、駐車場が確保され、山道も整備されていて快適。フィールドは夜来の雨で少し湿っぽく感じられるが身支度をし、ミーティング。参加者8名[明石、阿部、板橋、小森、中畑、森、守口、弓場] 第3期1.45haの残された一画、に取り掛かった。盛り上がった尾根になっていて、枯死木のマツや、シダ、小灌木が、密生している。かなりの面積がありそうでなかなか手ごわく感じる。ハチが舞うこともあったが、被害はなかった。

あちこちに、ショウジョウバカマがしっかりと葉を出し、湿地には素晴らしい苔の群落が見かけられた。しっかりと汗をかき、PM3:00山を後にしました。(阿部和生記)

10月例会 「大和三山と藤原京跡」

～畝傍山、香具山、耳成山、藤原京を訪ね古代ロマンに浸る～
藤原京を三方向から取り囲み、二等辺三角形の頂点に鎮座する三山には万葉ロマンと古代の神秘が秘められています。2005年に国の名勝に指定され又、「飛鳥・藤原の宮都とその関連資産群」として「世界遺産候補」の暫定リストに入っています。

1、日時： 10月29日(水)

2、集合： 近鉄橿原神宮前駅 中央口 10時

大和西大寺9:27-9:57 橿原神宮前

大阪阿部野橋9:20-9:58 橿原神宮前

3、コース： 橿原神宮前-畝傍山-香具山-藤原京跡-耳成山-近鉄八木

歩行距離 約12キロ 急な登りはありません。

4、持ち物： 弁当、飲み物、観察用具、雨具

* 当日の天候判断に迷う時は、担当幹事に電話でお問い合わせ下さい。

担当：林令子(

・明石嘉一郎



＜11月の予定＞

11月例会「吉野川源流を探る」

— 日本最古の人工林と国指定天然記念物トガサワラの谷を訪ねる —

開催日： 11月10日(月)～11日(火) [雨天決行]

集合時間： 午前10時30分 バス出発

集合場所： 近鉄・大和上市駅 出改札口前

(参考) ①近鉄・阿倍野橋駅8:50発(急行)⇒橿原神宮前駅10:29着

②近鉄・西大寺駅8:48発(普通)⇒橿原神宮前駅9:23着

[乗り換え] 橿原神宮前駅9:30発(急行)⇒大和上市駅10:19着

解散場所： 近鉄大和上市駅 (11日・午後3時30分頃)

宿泊場所： 入之波(しおのは)温泉 「五色湯(ごしきゆ)」

奈良県吉野郡川上村入乃波温泉 電話：0746-54-0777

参加費用： 17,500円 (宿泊、食事[昼・夜・朝・昼]代ほか)

行程： 二交通手段は全行程「五色湯」のマイクロバスを利用します二

10日(月)：大和上市駅(10:30)出発⇒川上村「森と水の源流館」

□講演会・「木を守り水を守る」講師：辻谷達雄館長

□日本最古の人工林見学・川上村地域振興課森口氏 □「五色湯」泊

11日(火)：マイクロバス⇒吉野川源流・三之公「水源地の森」入口へ

□ 水源地の森(三之公天然林)自然観察(途中昼食)

案内：森と水の源流館辻谷館長、木村全邦氏

□ 大滝茶屋にて休息 柿の葉鮎など

持物服装： ハイキングスタイル、登山靴、ストック、サブザック、雨具、手袋、防寒具、水筒、観察用具、常備薬、健康保険証(写)ほか

*参加申し込みは、下記中より書左へ添付下さい！

(担当幹事：古川祐司)

弓場厚次

11月例会「吉野川源流を探る」 参加申込み書		
申込み先：弓場厚次 宛		
氏 名	住 所	電話番号

「いこま棚田クラブ」の活動日 ご案内

10月活動日・・・5日(日)、13日(月)、19日(日)、27(月)

集合場所と時間：近鉄生駒駅下車、南口側ケーブル駅西隣セブンイレブン前 AM9時集合
現地まで車で移動15分。弁当・飲み物持参下さい。

*10月の作業は、菜の花種まき、草刈り等です

平成20年9月度幹事会議事録

日時：平成20年9月9日(火) 場所：中部公民館 司会：小田 記録：明石

[報告事項]

- (1) 会員動向・会計報告：会員在籍 100名 会計(預金残) 1,030,709円
- (2) 例会：奈良県「ならやま里山林自然体験」—8/30(土)天候不順の予報の為中止。
- (3) ならやま里山林プロジェクト：*8/8：会報に掲載。*8/23：一般活動日(第一回講座生教育認定)雨で中止。*8/31：参加18名—ゴミ収集、ニンニク畑耕。
- (4) 黒髪山自然塾：8/24参加57名。スタッフ10名。竹切り・ソーメン流し・工作
- (5) その他：いこま棚田クラブ8月(3・11・17・25・31)、作業12:30終了、食事後ミーティング解散、作業内容—草刈、田んぼ・さつまいも畑補強。

[確認事項]

例会：「赤埴の巨樹と佛隆寺」9/26(金)9月号会報参照。

「大和三山と藤原京」10/29(水)詳細は10月号会報に掲載。

「吉野川源流を探る」(一泊研修)11/10(月)～11(火)参加者募集

忍辱山：9/17(水)予9/24、10/22(水)・・・10/15は取り止め、

11/13(木)予11/26

ならやま：9/11(木)、9/27(土)、9/30(予)、10/9(木)、10/25

(土)、10/26(予)、11/6(木)、11/22(土)、11/30予

催事：・10/25(土)佐保台小学校元気クラブ ・10/26(日)くろかみや

ま自然塾 ・9/18(木)シニア海と森「布目川、甕穴」道案内

・9/20(土)環境フェアー パネル展示

[討議事項] (1) 例会への予算措置について (2) ならやま里山林の生物調査

(3) 平成21年新春講演会について

編集担当：勝田 均

TEL&FAX

【当会の行事における傷害事故等については個人負担とし、当会は賠償等一切の責任は負いません】

奈良・人と自然の会事務所

11月例会「吉野川源流を探る」

ー 日本最古の人工林と国指定天然記念物トガサワラの谷を訪ねる ー

9月号でご案内しました掲題例会の実施要領をお知らせします。紅葉真っ盛りのこの時季、日本最古の人工林と、吉野川源流への観察行をお楽しみ下さい。皆様のご参加をお待ちしております。なお、参加申し込みは、本紙申込欄をご使用下さい。

記

開催日： 11月10日(月)～11日(火) [雨天決行]

集合時間： 午前：10時30分 バス出発

集合場所： 近鉄・大和上市駅 出改札口前

(参考) ①近鉄・阿倍野橋駅 8:50 発(急行)⇒橿原神宮前駅 10:29 着

②近鉄・西大寺駅 8:48 発(普通)⇒橿原神宮前駅 9:23 着

[乗り換え]

橿原神宮前駅 9:30 発(急行)⇒大和上市駅 10:19 着

解散場所： 近鉄大和上市駅 (11日・午後3時30分頃)

宿泊場所： 入之波(しおのは)温泉 「五色湯(ごしきゆ)」

奈良県吉野郡川上村入乃波温泉 電話：0746-54-0777

参加費用： 17,500千円 (宿泊、食事[昼・夜・朝・昼]代ほか)

行程： ー交通手段は全行程「五色湯」のマイクロバスを利用しますー

10日(月)：大和上市駅(10:30)出発⇒川上村「森と水の源流館」

□ 講演会・「木を守り水を守る」・・・講師：辻谷達雄館長

昼食後 ⇒ 川上村下多古村有林登山口にバスで移動

□ 日本最古の人工林見学・・・川上村地域振興課森口氏

□ 「五色湯」泊、懇親会

11日(火)：マイクロバス⇒吉野川源流・三之公「水源地の森」入口へ

□ 水源地の森(三之公天然林)自然観察(途中昼食)

案内：森と水の源流館辻谷館長、木村全邦氏

□ 大滝茶屋にて休息 柿の葉鮎など

□ マイクロバスにて 大和上市駅へ

持物服装： ハイキングスタイル、登山靴、ストック、サブザック、雨具、手袋、防寒具、水筒、観察用具、常備薬、健康保険証(写)ほか

(担当幹事：古川祐司

弓場厚次

11月例会「吉野川源流を探る」 参加申込み書		
弓場厚次 でお申し込み下さい。		
氏 名	住 所	電話番号